

掲載専攻

(一貫制博士課程)

- 哲学・思想専攻
- 歴史・人類学専攻
- 文芸・言語専攻

(博士前期課程)

- 現代語・現代文化専攻
- 国際公共政策専攻
- 国際日本研究専攻

(修士課程)

- 国際地域研究専攻

(博士後期課程)

- 現代語・現代文化専攻
- 国際公共政策専攻
- 国際日本研究専攻



筑波大学
University of Tsukuba

人文社会科学研究科

一貫制博士課程・博士前期課程・修士課程・博士後期課程



一貫制博士課程

研究科の教育目標

1・2年次においては、修士学位の取得と、高度の専門性を備えた職業人もしくは将来研究者・教育者をを目指す者としての自覚を促すため、新たな研究動向や社会的要請の変化を踏まえた授業と研究指導を展開する。

3・4・5年次においては、修士学位の取得と、研究者・教育者及び高度専門職業人としての自立を促すため、新たな研究動向や社会的要請の変化を踏まえた授業と研究指導を展開する。

さらに、専攻間の履修上の垣根を低くすることによって、幅広く柔軟な思考力を養い、人文科学・社会科学の深化された専門性をグローバルな視点から現代世界の多様な問題へと関連づけ解決を模索する力を養うよう努める。

また、様々な課外の教育支援プログラムを用意し、多様な能力の伸長をめざす。

研究科の求める人材

1・2年次においては、それぞれの専門分野において修士学位の取得に必要な基礎的知識と確かな語学力を身につけ、かつ自らの研究の深化に挑戦する意欲と柔軟な思考力を備えた学生を歓迎する。修了時には、それぞれの専門分野において、高度の専門性を備えた職業人または将来研究者・教育者をを目指す者として率先して活動できる能力を身につけることを期待する。

3・4・5年次においては、それぞれの専門分野において修士学位の取得に必要な知識と確かな語学力を身につけ、かつ新たな研究分野の開拓に挑戦する意欲と柔軟な思考力を備えた学生を歓迎する。修了時には、それぞれの専門分野において研究者・教育者または高度専門職業人として自立的に活躍できる能力と国際的な発信能力を身につけることを期待する。

研究科の入学選抜方針

それぞれの専門分野の基礎的知識、また、修士学位、博士学位の取得が可能と判断される潜在的能力、旺盛な研究意欲の有無を重視する。推薦入試を実施する専攻では、各専攻が求める学部（学群）の学業成績基準のほか、専門分野に関する個別面接を重視する。一般入試では、各専門分野に応じた語学能力試験、専門科目試験、個別面接、研究計画書などを総合的に評価する。3年次編入試験では修士論文（又はこれに準ずる研究論文等）、語学能力試験、個別面接を総合的に評価する。

1 哲学・思想専攻

教育目標

哲学、倫理学、宗教学・比較思想学の各分野において、研究者として高い語学力と高度の基礎研究能力を身につけたうえで新たな知の領域を研究開拓して学問の進展に寄与し学際的・国際的発信力をもつ人材と高度専門職業人として高度の語学力と専門知識を身につけ、広い視野をもって日本社会と国際社会に貢献できる人材の教育を目標とする。

求める人材

学問に対して真摯な姿勢をもち、人間の精神や文化を集中力をもって粘り強く掘り下げ、獲得した結果を論理的に表現し、結果を社会に還元する意欲をもつ学生が望ましい。

入学選抜方針

5年一貫制博士課程として、それぞれの専門分野の基礎的知識、博士学位の取得が可能と判断される潜在的能力、旺盛な研究意欲の有無を重視する。推薦入試では、求める学部（学群）の学業成績基準のほか、専門分野に関する個別面接を重視する。一般入試では、各専門分野に応じた語学能力試験、専門科目試験、個別面接、研究計画書を総合的に評価する。3年次編入試験では修士論文（又はこれに準ずる研究論文等）、語学試験、個別面接を総合的に評価する。

2 歴史・人類学専攻

教育目標

5年一貫制の履修課程を活かして、史科学・フィールドワーク等の専門研究者としての基本的な技能を育成するとともに、各人の課題に即した研究を自立的に進め、学界に寄与するだけでなく、広く社会に貢献しうる研究成果を、博士論文として完成させることを目標とする。あわせて、歴史学と人類学を横断する複合的な領域を設けることで、既存の学問分野にとらわれない実質的な学生指導を行うことを目標とする。

求める人材

学問に対する純粋な姿勢をもち、研究課題に真摯に取り組む向学心を有することを前提に、基礎となる語学力や分析力、豊かな構想力や表現力を身につけた者。同時に、情熱をもって研究活動に従事し、その成果を社会に還元する意欲を有する者が望ましい。

入学選抜方針

5年一貫の指導体制に十分応えうる基礎的素養と研究に対する積極的な姿勢、及び各自の研究課題に対する専門的な知識を問う。

具体的には、10月期と1・2月期の2度、入学選抜の機会を設け、募集定員を分割して、筆記試験、口述試験等によって選抜する。10月期には、筆記試験として語学と専門問題を課し、1・2月期には専門・関連問題を課すほかに論文審査を重視することで、多様な入学試験に対応できるようにしている。

3 文芸・言語専攻

教育目標

本専攻は、文学分野7領域（総合文学・日本文学・イギリス文学・アメリカ文学・フランス文学・ドイツ文学・中国文学）と言語学分野6領域（一般言語学・応用言語学・日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学）に分かれる。文学分野では、文学理論・歴史を学び、文献の徹底的な読解と分析による研究能力の育成を目指す。言語学分野では、個別言語の特性と言語の普遍性の解明を目標とした理論的・実証的研究を行える能力の育成を目指す。また、分野・領域を超えた研究テーマのもとに共同研究のなかで実践的に学ぶプロジェクト型授業も開講している。

求める人材

言語や文学の問題を人間の精神や文化と結びつけて深く研究することに情熱を傾けられる人。研究である以上、専門的知識や論理的思考力だけでなく、一定の問題を突き詰めて考えていくことのできる執着心と集中力を合わせもつ学生を歓迎する。

入学選抜方針

7月期の推薦入試では、外国語（1科目）の基本的読解力を筆記試験により確認し、提出された論文の内容並びに入学後の研究計画を重視して選抜する。1・2月期の一般入試では、外国語（1科

目)と志望する研究領域に関する基礎的知識を問う筆記試験、提出された論文の内容や研究テーマに関する口述試験により、しかるべき研究意欲と能力があると判断される者を選抜する。

博士前期課程・修士課程

研究科の教育目標

修士学位の取得と、高度の専門性を備えた職業人もしくは将来研究者・教育者を目指す者としての自覚を促すため、各専攻において新たな研究動向や社会的要請の変化を踏まえた授業と研究指導を展開し、さらに、専攻間の履修上の垣根を低くすることによって、幅広く柔軟な思考力を養い、人文科学・社会科学の高度な専門性をグローバルな視点から現代世界の多様な問題へと関連づけ解決を模索する力を養うよう努める。

また、様々な課外の教育支援プログラムを用意し、多様な能力の伸長をめざす。

研究科の求める人材

それぞれの専門分野において修士学位の取得に必要な基礎的知識と確かな語学力を身につけ、かつ自らの研究の深化に挑戦する意欲と柔軟な思考力を備えた学生を歓迎する。修了時には、それぞれの専門分野において、高度の専門性を備えた職業人または将来研究者・教育者を目指す者として率先して活動できる能力を身につけることを期待する。

研究科の入学選抜方針

それぞれの専門分野の基礎的知識、前期課程にあつては修士学位、5年一貫制及び後期課程においては博士学位の取得が可能と判断される潜在的能力、旺盛な研究意欲の有無を重視する。推薦入試を実施する専攻では、各専攻が求める学部(学群)の学業成績基準のほか、専門分野に関する個別面接を重視する。一般入試では、各専門分野に応じた語学能力試験、専門科目試験、個別面接、研究計画書などを総合的に評価する。3年次編入試験では修士論文(又はこれに準ずる研究論文等)、語学能力試験、個別面接を総合的に評価する。

1 現代語・現代文化専攻

■教育目標

本専攻に現代文化分野と言語情報分野のふたつの分野をおく。前者は、現代文化の諸問題に、身体文化、表象文化、思想文化、書記文化、地域文化等の多様な切り口から迫るべく教育研究を行う分野であり、後者は、文化・社会の成立条件であることばの諸問題に、異文化言語解析、多言語比較対照、地域・社会と言語、外国語(英語)教育学等の多様な切り口から迫るべく教育研究を行う分野である。いずれの分野においても学問横断的な複数指導体制を採って、諸テーマ領域を有機的に組み合わせた超域的教育研究の場を提供し、開かれた教育研究体制を用意する。

■求める人材

一つの専門領域に対する真摯で飽くことのない関心を持つだけでなく、同時に他の領域にも強い興味を抱き、多面的な視点から、文化や言語に関わる諸問題を自由で柔軟な発想によって研究考察できる能力を備えた人。

■入学選抜方針

10月期と1・2月期一般入学試験により入学選抜を行う。10月期入試においては、外国語、専門科目(論述)及び口述試験を課し、研究計画書の提出を求める。1・2月期入試においては、外国語及び口述試験を課し、卒業論文またはそれに準ずる論文、論文概要、並びに研究計画書の提出を求める。

研究を進めるために必要な基礎的素養と研究に対する真摯な姿勢、各自の研究分野に関連する専門的な知識、及び外国語能力を問う。

2 国際公共政策専攻

■教育目標

- ・専攻共通目標として、「グローバル・スタディーズ、エリア・スタディーズ、ドメスティック・スタディーズの有機的結合により、公共に資する」を設定している。
- ・国際公共政策、国際政治経済学、政治学、社会学の各修士学位の取得を目標とするプログラムに沿った研究指導を行う。
- ・専攻内に、国際関係学、政治学、社会学の著名な教授陣を配し、学生の幅広い選択を可能にし、オープン・マインドな国際的研究者を育てる。
- ・グローバル化する国際関係、国際政治経済とそれに対応する国内外の政治問題、社会問題を鋭利に論じられる高度専門職を育成する。

■求める人材

広い関心、自由な精神を持ち、「世の為人の為になる」ことを、自分の研究背景から力強く提言してみたい人。

国際的視野をもち、国内と海外の政治、経済、社会について自信をもって語りたい人。

■入学選抜方針

- 7月期の推薦入学試験及び10月期・1・2月期の一般入学試験により選抜する。
- 7月期推薦入学試験は、専門分野に関する小論文試験および口述試験による。
- 10月期・1・2月期一般入学試験は、外国語試験、専門科目試験および口述試験による。
- また、受験生からの学部卒業論文(または学部卒業論文に代わる特定課題に関する研究成果)の提出も可能であり、審査の参考とする。

3 国際日本研究専攻(博士前期課程)

■教育目標

グローバル化する社会の中で、国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について人文科学、社会科学に跨る研究及び教育能力を有し、その成果を広く国内のみならず海外にも発信していける研究者・教育者を養成すること、ならびに人文科学、社会科学両分野の専門的かつ国際的な学識を備え、世界で活躍する高度専門職業人の養成を目的とします。とくに、前期課程では関連する専門領域・ディシプリンの学習を基礎から学びながら、問題発見・解決のための基礎的能力を養成することを教育の目標としています。

■求める人材

伝統的な人文科学と現代的な人文科学を融合させつつ、国際日本研究の水準を高めることのできる人材を育成します。さらに、国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について研究し、その成果をもとに、日本や東アジアを中心に世界が抱える「家の問題」、「情報化の影響」、「グローバル化する経済が地域社会に与える影響」、「相互理解

を進めるためのコミュニケーションの促進」、「グローバル化する世界情勢のもとでの個人・社会・文化レベルでのアイデンティティの問題」などさまざまな問題に主体的に取り組んでいく意欲をもつ学生および社会人。前期課程ではこのような問題を自分自身の問題として基礎から学びたいと考える研究者や高度な職業人を旨とする人材を求めます。

■入学者選抜方針

10月期と1・2月期に行われる一般入学試験においては、語学と専門科目、口述試験を課します。1・2月期の社会人特別選抜においては、小論文と口述試験を課します。

いずれの試験においても、後期課程への進学や高度職業人を旨とするに必要な基礎的知識と、真摯に研究課題に向かおうとする姿勢を重視します。

4 国際地域研究専攻

■教育目標

- ・特定の国家や地域社会の内在的かつ総合的理解を目指す「地域研究」を通して、国際性、学際性、実践性を柱とした教育研究を行い、広い視野をもった高度な専門職業人、特定地域の専門家の育成を目標とする。
- ・国際性については、グローバル化の進む世界において、特定の地域社会を総合的に把握できる視野の確立を目指す。併置する英語特別プログラム等の留学生との交流を促進し、海外での調査や研究を推奨する。
- ・学際性については、専門領域を極めつつも、隣接研究領域の方法と問題群を掌握し、現代地域社会の実態に迫る分析能力の涵養を目指す。
- ・実践性については、現地でのフィールド調査、海外協定校での学修や留学、国際研究会等への参加を通じて、実践的な企画立案能力と自己表現能力の涵養を目指す。

■求める人材

特定の国家や地域社会の諸現象に強い関心をもち、国際貢献や国際協力の現場での活躍を目指して、対象に対して自ら働きかけることができる人。

■入学者選抜方針

- ・7月期の推薦入学試験及び10月期の一般入学試験により入学者選抜を行う。
- ・7月期の推薦入学試験は、事前に提出された研究計画書によって研究能力・論述能力を審査し、研究遂行能力と研究意欲を問う口述試験を課し、総計点によって選考する。
- ・10月期の一般入学試験は、専門分野に応じた語学能力を問う試験、専門知識を問う試験、研究遂行能力を問う口述試験の3種を課し、総計点によって選考する。事前に研究計画書の提出を求める。
- ・併置する英語特別プログラムは、留学生を対象とし、外務省やJICA/JICEや世界銀行と協力して、特別選抜によって選考する。

博士後期課程

研究科の教育目標

博士学位の取得と、研究者・教育者及び高度専門職業人としての自立を促すため、各専攻において新たな研究動向や社会的要請の変化を踏まえた授業と研究指導を展開し、さらに、専攻間の履修上の垣根を低くすることによって、幅広く柔軟な思考力を養い、人文科学・社会科学の深化された専門性をグローバルな視点から現代世界の多様な問題へと関連づけ解決を模索する力を養うよう努める。

また、様々な課外の教育支援プログラムを用意し、多様な能力の伸長をめざす。

研究科の求める人材

それぞれの専門分野において博士学位の取得に必要な知識と確かな語学力を身につけ、かつ新たな研究分野の開拓に挑戦する意欲と柔軟な思考力を備えた学生を歓迎する。修了時には、それぞれの専門分野において研究者・教育者または高度専門職業人として自立的に活躍できる能力と国際的な発信能力を身につけることを期待する。

研究科の入学者選抜方針

それぞれの専門分野の基礎的知識、前期課程にあつては修士学位、5年一貫制及び後期課程においては博士学位の取得が可能と判断される潜在的な能力、旺盛な研究意欲の有無を重視する。推薦入試を実施する専攻では、各専攻が求める学部（学群）の学業成績基準のほか、専門分野に関する個別面接を重視する。一般入試では、各専門分野に応じた語学能力試験、専門科目試験、個別面接、研究計画書などを総合的に評価する。3年次編入試験では修士論文（又はこれに準ずる研究論文等）、語学能力試験、個別面接を総合的に評価する。

1 現代語・現代文化専攻

■教育目標

前期課程での教育研究を受け継ぎ、後期課程において「論文演習」という授業を設け、博士論文の指導を進めるとともに、研究成果を内外に発信する能力の養成に重点をおく。

現代社会の諸問題を複眼的視点から考察し、現代世界への理解を深め、将来への展望を切り開く研究をなす力を身につけた、世界で活躍しうる研究者あるいは高度専門職業人を育てることを、教育の目標とする。

■求める人材

一つの専門領域に対する真摯で飽くことのない関心を持つだけでなく、同時に他の領域にも強い興味を抱き、多面的な視点から、文化や言語に関わる諸問題を自由で柔軟な発想によって研究考察でき、その問題に対して新たな展望を切り開く能力を備えた人。

■入学者選抜方針

2月期入学試験を実施し入学者選抜を行う。受験科目は口述試験とし、必要に応じて外国語を課す。修士論文、論文概要、及び研究計画書の提出を求める。

将来の研究者あるいは高度専門職業人としての基礎的素養と研究に対する真摯な姿勢、及び各自の研究課題に関する専門的な知識を問う。

2 国際公共政策専攻

■教育目標

専攻共通目標として、以下を設定する。

- ・国際公共政策、国際政治経済学、政治学、社会学の各学位取得を目標とする、専門性に裏付けられ、政策的含意を含む優れた博士論文の作成。特に、内外の政治経済問題や社会文化問題に関し、政策提言や解決方策を志向し、公共の利益に資する論文の奨励。
- ・グローバル・スタディーズ、エリア・スタディーズ、ドメスティック・スタディーズの教育上の協力関係を緊密なものとし、複数のディシプリンに通じた柔軟な思考力を備え、それを博士論文等の成果に生かし得る能力の涵養。
- ・研究成果を内外に発信する能力、自らの研究プロセスを管理・発展させる能力の育成。

■求める人材

大学教員や高度専門職を将来の目標とし、洗練された論理的思考や多様な社会問題、政治情勢を把握する志向性を有する人が望ましい。そのうえで現代社会や国際関係の諸問題について具体的な政策提言や解決方策を言語化できる強度かつ柔軟な思考力を備えた学生を歓迎する。

■入学者選抜方針

- ・2月期の入学試験により選抜を行う。
- ・外国語試験、専門科目試験および口述試験による。
- ・また、修士論文（または修士論文に代わる特定課題に関する研究成果）の提出を求め、審査の参考とする。
- ・本専攻の前期課程修了者以外の志願者に対して、上記試験のほか出身修士課程研究科等における履修状況について口述試験の際に質問を行い、審査の参考とする。

3 国際日本研究専攻（博士後期課程）

■教育目標

グローバル化する社会の中で、国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について人文科学、社会科学に跨がる研究及び教育能力を有し、その成果を広く国内のみならず海外にも発信していける研究者・教育者を養成すること、ならびに人文科学、社会科学両分野の専門的かつ国際的な学識を備え、世界で活躍する高度専門職業人及び専門家、研究者の養成を目的とします。とくに、後期課程では関連する専門領域・ディシプリンの学習を高度なレベルまで追求し、問題発見・解決のための高度な能力を養成することを教育の目標としています。

■求める人材

国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について研究し、その成果をもとに、日本や東アジアを中心に世界が抱える「家の問題」、「情報化の影響」、「グローバル化する経済が地域社会に与える影響」、「相互理解を進めるためのコミュニケーションの促進」、「グローバル化する世界情勢のもとでの個人・社会・文化レベルでのアイデンティティの問題」などさまざまな問題に主体的に取り組んでいく意欲をもつ学生および社会人。後期課程では、このような問題に対して研究者としてあるいは高度な研究能力を持つ職業人として、正面から取り込む意欲を持つ学生や社会人を広く求めます。

■入学者選抜方針

7月期推薦入試においては小論文と面接試験を課します。10月期一般入学試験においては、語学と専門科目、口述試験を課します。1・2月期の一般入学試験ならびに社会人特別選抜においては、小論文と口述試験を課します。

博士学位を取得する強い意欲、研究に対する真摯な姿勢、関連する専門領域における知識・素養を重視します。

〈過去問〉

専攻	閲覧	コピー	郵送	電話番号	問い合わせ先
哲学・思想	×	○	○(注1)	029-853-4133	哲学・思想専攻事務室
歴史・人類学	×	○	○(注2)	029-853-4403	歴史・人類学専攻事務室
文芸・言語	○	○	○(注3)	029-853-4340	文芸・言語専攻事務室
現代語・現代文化	○(注3)	○(注4)	○(注4)	029-853-4425	現代語・現代文化専攻事務室
国際公共政策	○	○	○(注5)	029-853-6795	国際公共政策専攻事務室
国際日本研究	○	○	○	029-853-4037	国際日本研究専攻事務室
国際地域研究	○(注6)	○(注6)	○(注6)	029-853-4593	国際地域研究専攻事務室

(注1) 郵送を希望する場合は詳細について哲学・思想専攻事務室まで問い合わせてください。

(注2) 歴史・人類学専攻ホームページ (<http://histanth.tsukuba.ac.jp/>) を参照してください。

(注3) 郵送は過去1年分のみ。

(注4) 過去3年分のみ。郵送を希望する場合は詳細について現代語・現代文化専攻事務室まで問い合わせてください。

(注5) コピー、郵送は、過去2年分。詳細については専攻事務室まで問い合わせてください。

(注6) 直近の専門科目のみ。国際地域研究専攻ホームページ (<http://www.chiiki.tsukuba.ac.jp/>) を参照してください。

〈入試主要日程〉

専攻	実施時期	募集要項	入学願書受付	学力検査	合格発表
(一貫制博士課程) 哲学・思想・文芸・言語	2017年7月 (推薦)	4月下旬	2017/6/1(木)～ 2017/6/9(金)	2017/7/5(水)	2017/7/12(水)
(一貫制博士課程) 歴史・人類学	2017年10月	4月下旬	2017/9/1(金)～ 2017/9/21(木)	2017/10/19(木)	2017/11/1(水)
(一貫制博士課程) 哲学・思想・歴史・人類学	2018年1月	4月下旬	2017/12/1(金)～ 2018/1/10(水)	2018/1/30(火)	2018/2/16(金)
(一貫制博士課程) 文芸・言語	2018年1月	4月下旬	2017/12/1(金)～ 2018/1/10(水)	2018/1/30(火) 2018/1/31(水)	2018/2/16(金)
(修士課程) 国際地域研究	2017年10月	4月下旬	2017/9/1(金)～ 2017/9/21(木)	2017/10/19(木) 2017/10/20(金)	2017/11/1(水)
(博士前期課程) 国際公共政策	2017年7月 (推薦)	4月下旬	2017/6/1(木)～ 2017/6/9(金)	2017/7/5(水)	2017/7/12(水)
(博士前期課程) 現代語・現代文化・国際日本研究	2017年10月	4月下旬	2017/9/1(金)～ 2017/9/21(木)	2017/10/19(木) 2017/10/20(金)	2017/11/1(水)
(博士前期課程) 国際公共政策	2017年10月	4月下旬	2017/9/1(金)～ 2017/9/21(木)	2017/10/19(木)	2017/11/1(水)
(博士前期課程) 現代語・現代文化・国際日本研究	2018年1月	4月下旬	2017/12/1(金)～ 2018/1/10(水)	2018/1/30(火) 2018/1/31(水)	2018/2/16(金)
(博士後期課程) 国際日本研究	2017年7月 (推薦)	4月下旬	2017/6/1(木)～ 2017/6/9(金)	2017/7/5(水)	2017/7/12(水)
(博士後期課程) 国際日本研究	2017年10月	4月下旬	2017/9/1(金)～ 2017/9/21(木)	2017/10/19(木)	2017/11/1(水)
(博士後期課程) 現代語・現代文化	2018年1月	4月下旬	2017/12/1(金)～ 2018/1/10(水)	2018/1/30(火) 2018/1/31(水)	2018/2/16(金)
(博士後期課程) 国際公共政策・国際日本研究	2018年1月	4月下旬	2017/12/1(金)～ 2018/1/10(水)	2018/1/30(火)	2018/2/16(金)

注) 1. 秋学期入学者に対する入学試験を実施する場合は、上記日程で行うものとする。

2. 入学定員の関係により、博士課程「第3年次編入学試験」及び修士・博士課程「第2次募集」を実施する場合は、2018年の2月期の日程「1/30～2/2」により行う。

〈募集要項〉 <http://www.ap-graduate.tsukuba.ac.jp/index.html>

〈教員一覧〉

■ 哲学・思想	http://www.logos.tsukuba.ac.jp/Nlogoskhp.html
■ 歴史・人類学	http://www.histanth.tsukuba.ac.jp/members.html
■ 文芸・言語	http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/
■ 現代語・現代文化	http://www.modernlc.tsukuba.ac.jp/index.html
■ 国際公共政策	http://web.dppe.tsukuba.ac.jp/staff/
■ 国際日本研究	japan.tsukuba.ac.jp/people/faculty.html
■ 国際地域研究	http://www.chiiki.tsukuba.ac.jp/people/professors.htm

〈シラバス〉

■ 哲学・思想	http://www.logos.tsukuba.ac.jp/Nlogoskhp.html
■ 歴史・人類学	http://www.histanth.tsukuba.ac.jp/syllabus.html
■ 文芸・言語	http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/
■ 現代語・現代文化	http://www.modernlc.tsukuba.ac.jp/syllabus/syllabus.html
■ 国際公共政策	http://web.dppe.tsukuba.ac.jp/courses/
■ 国際日本研究	japan.tsukuba.ac.jp/aboutus/course.html
■ 国際地域研究	http://www.chiiki.tsukuba.ac.jp/syllabus/syllabus/

問い合わせ先

筑波大学大学院 博士課程 人文社会科学研究科事務室

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL 029-853-7716

■ 哲学・思想専攻	TEL 029-853-4133
■ 文芸・言語専攻	TEL 029-853-4340
■ 国際公共政策専攻	TEL 029-853-6795
■ 国際日本研究専攻	TEL 029-853-4037

■ 歴史・人類学専攻	TEL 029-853-4403
■ 現代語・現代文化専攻	TEL 029-853-4425
■ 国際地域研究専攻	TEL 029-853-4593

インターネット ホームページ

<http://www.hass.tsukuba.ac.jp/index.html>